



県民生活を守る立場から反対討論 わしの議員

10月16日、わしの議員は9月議会本会議最終日において、「あいち森と緑づくり税条例」の一部改正と、「愛知県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正について反対討論を行いました。

弱者に重い「森と緑づくり税」 課税期間延長は認められない

9月議会には、「あいち森と緑づくり税条例」の一部改正が提案されました。この税は、「森林、里山及び都市の緑の適正な整備及び保全」のための施策の財源で、県民税の超過課税として県民一人当たり年額500円、法人は均等割額の5%が徴収されています。2009年度から徴収され2018年度までが課税期間でしたが、これを2023年度まで5年延長するものです。

わしの議員は、森林の保全は極めて重要と指摘した上で、「1995年度は49億4900万円あった林業振興予算が『あいち森と緑づくり税』が新設される前年の2008年度は24億8200万円と13年間で半分になってしまった」と述べました。

あいち森と緑づくり税は年間約22億円の収入、その一方で愛知県は大型開発や大企業優遇の県政を進めています。わしの議員は、「設楽ダムはその典型で、森林保全をするためには、こうした県政を改めることが重要だ」と指摘しました。

また、「税の大原則である『応能負担』に反する県民税の均等割税は県民の理解を得られない。名だたる大企業でも年間わずか4万円で少ない」

と主張ました。

わしの議員は、「『あいち森と緑づくり税』によらなくても財源は確保できる。大企業の法人事業税の超過課税3%を5%に戻せば、『あいち森と緑づくり税』を上回る税収が得られる。愛知県の豊かな財政力を生かして一般会計から負担すべきで、条例の一部改正には賛成できない」と述べました。

がんセンター愛知病院の岡崎市への 移管は病床削減、専門性放棄

9月議会には、「愛知県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正も提案されました。これは、がんセンター愛知病院を岡崎市に移管するための条例改正です。岡崎市が発表した岡崎市民病院事業将来ビジョンでは、愛知病院の病床数を141床も減らすことになっています。

わしの議員は、「愛知病院は国指定のがん診療連携拠点病院であり、患者は『がんセンターだから』という専門性に信頼を寄せている。岡崎市への移管により、『がん拠点』の専門性、緩和ケアやべき地医療支援はどうなるのか疑問だ。条例の一部改正には賛成できない」と主張しました。

共産党提案の「災害対策の充実強化についての意見書」を採択

今期2件目

9月議会最終日、共産党が提案した「災害対策の充実強化についての意見書(案)」が、一部修正はあったものの全会一致で採択されました。今期、共産党提案の意見書が全会派賛成となるのは、2016年9月議会での「最低賃金の引き上げについての意見書」につづき2件目です。

意見書の内容は、①国土の強靭化に向け、河川・

海岸整備等の国の直轄事業を推進するとともに、地方自治体の行う防災・減災事業が着実に実施されるよう、必要な財政措置を講じること、②自然災害の発生要因の監視・観測体制や研究体制を強化するための施策を推進すること、③避難所の確保・充実を図ることはもとより、被災者生活再建支援制度を充実させるなど、被災者の自立に向けた支援の強化を図ることです。